6/8(土) まいど！倫々会です。両親の足を洗った事がない もっと早くに倫理を学びをしていればと残念です。ご先祖様とは、いつまでも生きています。 感謝は 幸せを呼ぶマホー

6月のテーマ | 感謝という妙薬

息子が教えてくれたもの

先祖と両親という縦の軸、夫婦という横の軸がしっかりと結ばれて、家庭が明朗愛和に立ち返る。すると、息子が、つながりを自覚したかのように、未来への一歩を踏み出したという体験をご紹介します。

家族は親子夫婦の縦横十字の関係で成り立っています。このつながりが深いほどに強固な家族となっていきます。しかし、つながりが弱かったり、切れていたりすると、その影響は様々なところへ現われてしまいます。

自動車整備会社を経営するA氏は、創業者である父の後を継ぎ、事業を拡大していきました。三代目についても〈息子は当然継ぐはずだ〉と思っていました。

その息子が自動車販売会社に就職後、何も言わずに退職してしまいました。問い詰めると自分は書道家になりたいと言います。「そんなことで食っていけるわけがない」とA氏は一喝しました。すると息子はそのまま家を飛び出し、後日戻ってくるなり、部屋にこもってしまいました。

三カ月経過しても息子は部屋から出てきません。A氏は思い悩んだ末に、倫理指導を受けることにしたのです。そこで、次の四つの実践を提示されました。

①息子に手紙を書く。②A家の墓参をする。
③両親の足を洗う。④妻に詫びる。

A氏は一つひとつ取り組んでいきました。中でも、両親の足を洗う実践の情景を次のように述べています。

「母の足は小さくしわだらけでした。父の足は、ごっつい働きものの足でした。特に母の足を見て、触れて、洗っている時には〈苦労をかけたな。申しわけなかった。ありがとう〉と涙が止まらず、同時に母も泣いていました」

指導を受けてから一週間。四つの実践を全うした翌日、A氏の表情が和らいだとき、息子は部屋から出て、軽やかに階下に降りてきました。開口一番「親父、会社手伝うよ。一所懸命やる。だから、書道も一所懸命やらせて欲しい」。

その言葉を聞き「思い切ってやったらいい」と返事をしているA氏がいました。

「親子夫婦のたてよこ十字の愛和は、家庭の幸福のもとであり、親子、長幼の縦の敬慈、すべての人の横の愛和、協力が、社会一切の幸福を生み出す」（『万人幸福の栞』第八条）

A氏は四つの実践を通して、ご先祖様、両親、妻、そして息子に真向かいました。それぞれの心に触れ、感謝の思いが溢れてきたのです。

ご先祖様と両親という縦の軸、夫婦という横の軸がしっかりと結ばれ、家庭が明朗愛和に返ったとき、息子が未来への一歩を踏み出したのは、自然な流れではないしょうか。

以来、A氏は会社においても従業員に感謝し、話をよく「聴く」ようになりました。また、以前は常に怖がられる存在でしたが、現在は温和な笑顔で人に接しています。会社の業績がさらに上向いたこともまた自然なことでしょう。頑固なA社長に「感謝」という妙薬を教えてくれたのは、我が子だったのです。

一般社団法人 倫理研究所 法人局

え・城谷俊也